

日本認知言語学会第8回全国大会プログラム 【2日目】

9月23日(日) 受付 8時40分から

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		8号館 201	8号館 203	8号館 303	8号館 304	8号館 402	8号館 403
ワークショップ	9:10 11:30	<p><テーマ> Semantic-Pragmatic Changes in Grammar and Lexicon: Emergence of Concessivity, Politeness Effect, and Speaker's Subjective Evaluation</p> <p>堀江薫(東北大学大学院), 鈴木亮子(慶応義塾大学), 小野寺典子(青山学院大学), 進藤三佳(京都大学[非常勤]), Traugott, Elizabeth (Stanford University)[ディスカッサント]</p>	<p><テーマ> 早期英語教育</p> <p>小野尚美(成蹊大学) 高野恵美子(昭和女子大学) アレン玉井光江(千葉大学) Tom Merner(昭和女子大学付属昭和小学校)</p>	<p><テーマ> 認知言語学的観点からの第二言語としての日本語の多義語習得研究と教育への応用可能性について</p> <p>森山新(お茶の水女子大学大学院), 王冲(大連理工大学外国語学院), 白以然(お茶の水女子大学[院]), 石井佐智子(お茶の水女子大学[院])</p>	<p><テーマ> モダリティの文化化・意味変化とその方向性</p> <p>黒滝真理子(日本大学), 池上嘉彦(昭和女子大学)[ディスカッサント], 高橋清子(神田外国語大学), 玉地瑞穂(高松大学), ハイコ・ナロック(東北大学), 宮下博幸(金沢大学)</p>	<p><テーマ> 構文を意味地図で捉える</p> <p>中村芳久(金沢大学), 村尾治彦(熊本県立大学), 田村幸誠(滋賀大学), 金容澤(オレゴン大学)</p>	<p><テーマ> 文法と語用論の新しい側面</p> <p>高橋英光(北海道大学大学院), 大橋浩(産業医科大学), ペトリシェヴァ・ニーナ(北海道大学[院])</p>

昼食休憩(11:30 ~ 12:30)

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		8号館 201	8号館 203	8号館 303	8号館 304	8号館 402	8号館 403
第1発表	12:30 13:10	<p>形容詞の多義性: 共感覚比喩の意味ネットワーク 高田麻里(国際基督教大学)</p>	<p>中国で出版されている日本語教科書に見る事態把握の傾向 近藤安月子(東京大学大学院)・姫野伴子(埼玉大学)</p>	<p>"They could have done it tomorrow": 未来の反実仮想 片岡宏仁(関西外国語大学[院])</p>	<p>構文文法に基づく日本語構文の体系的記述の試みー「ローデーV」構文を事例にー 永田由香(京都大学[院])</p>	<p>A positional effect in sound symbolism: An experimental study 川原繁人(MIT[院])・篠原和子(東京農工大学大学院)・内本有美(フリー)</p>	<p>日韓語の補助動詞「テシマウ」と「a pelita」と「ko malta」について: 文化化の観点からの対照分析 鄭世桓(島根県立大学)・上原聡(東北大学大学院)</p>
第2発表	13:10 13:50	<p>分解不可能な慣用表現の慣用的意味の成立 <身体の状態(の変化)> から <精神状態(の変化)> への意味拡張 有園智美(名古屋大学[院])</p>	<p>ヴォイスの側面から見た感情表現の認知構造ー日中両言語における感情の自発性の捉え方を対照してー 王 安(島根大学)</p>	<p>行為解説の進行形概念構造について 友澤宏隆(一橋大学)</p>	<p>新しい表現の出現とその出現過程に関する一考察ー「形容詞+そうすぎる」構文を中心にー 奥田芳和(京都大学[院])</p>	<p>音象徴語の「範疇化問題」への一つの答え: 田守・スコラップ(1999)へのリプライ 秋田喜美(神戸大学[院]) / 日本学術振興会特別研究員)</p>	<p>文法化現象 (Grammaticalization) への批判・反例についてー文法化研究の正当性の再検討 山口和之(日本体育大学)</p>

休憩(10分)

第3発表	14:00 14:40	<p>感情のメタファーの日英差をもたらす要因についての考察 大石亨(明星大学)</p>	<p>語彙獲得における動詞の使い分けに関する研究: 中国語の「持つ」系動詞を事例として 佐治伸郎(慶應義塾大学[院])・今井むつみ(慶應義塾大学)・Saalbach Henrik(Swiss Federal Institute of Technology in Zurich)</p>	<p>A Frame-based Analysis of Double Object Construction-With Special Reference to CHARGE/COST/SAVE Events - 年岡智見(京都大学[院])</p>	<p>所有表現の名詞化における多用途逆転現象ー「ある」型から「持ち」型への転移ー 川島嘉美(金沢大学[院])</p>	<p>This, that and it from a cognitive perspective 新村朋美(フリー)・ハヤシ・ブレンダ(宮城学院女子大学)</p>	<p>マッチングとトートロジーの伝達情報 酒井智宏(日本学術振興会特別研究員)</p>
第4発表	14:40 15:20	<p>感情が形づくる心の風景: "a flood of joy" 型メタファー表現に見る写像の特性 大森文子(大阪大学大学院)</p>	<p>日本語を第二言語とする幼児のスキーマ生成による文構造の構築プロセス 橋本ゆかり(お茶の水女子大学[院])</p>	<p>Systematicity in English ditransitive idioms 渋谷良方(京都外国語大学)・野澤元(情報通信研究機構)</p>	<p>「認知言語類型論」その可能性の中心: 言語の多様性を創発する認知Aモードから認知Dモードへの変容と変遷 中野研一郎(京都大学[院])</p>	<p>否定の認知の身体的基盤についての、言語表現と身振り・表情の共起実験による研究 竹内義晴(金沢大学)・宮下博幸(金沢大学)</p>	<p>Toward a Cognitive Theory of Contextual Reference 安原和也(日本学術振興会特別研究員)</p>

シンポジウム (15:35 ~ 18:15) (4号館 大ホール)	テーマ 認知言語学とコミュニケーション
	司会・講師: 平賀正子先生(立教大学)、講師: 茂呂雄二先生(筑波大学)、講師: 西阪仰先生(明治学院大学)、講師: 井上逸兵先生(慶應義塾大学)

* 書籍展示は、両日とも8号館ロビー